

土木学会四国支部「土木紀行」No.65(愛媛県)

～宇和島にある吉田ふれあい国安の郷～

愛媛県宇和島市吉田町にある「吉田ふれあい国安の郷」は、明暦3年(1657年)に伊達氏10万石宇和島藩から分知して吉田藩3万石となった当地に、風格ある武家屋敷や商家、米蔵、漁家、農家を当時のまま再現した建築構造物です。その中でも、代表的な建造物が商家「法花津屋(ほけづや)」です。

法花津屋は、吉田藩の御用商人三引高月甚十郎の店舗として、安政6年(1859年)に建築された約45cmの役柱を使用した豪壮な商家建築で幕末の貴重な歴史的な建造物です。

この三引高月家は、吉田藩の開藩とともに吉田に住み、現在の魚棚に店舗を構え、法花津屋と号し、その当主は代々甚十郎を踏襲しました。酒や紙を中心とした問屋業で帆船を所有し、大阪方面へも手広く商いをし、財を築き、質屋、網、金融などの事業まで幅広く行っていたと言われていました。藩の御用商人として藩の財政に関与したり、町年寄をしたりと藩政にも影響力を持っていたといわれています。紙の専売制の強化などにより、農民の怒りの対象とされ、



国安の郷 (外観)



農 家（正面より）

寛政5年に吉田騒動(武左衛門一揆)が起こりました。

高月家当主の内、三代狸兄と六代虹器は、俳諧史にその名を残すほどの文化人で、虹器は、詩才のほかに書道と茶道にも通じ「吉田先家流」と称する插花の一派を興し「年賀集」を著しています。

現在、この歴史的建造物の店舗を平成元年に復元を目的に解体保存し、平成7年5月に「国安の郷」に移築復元しました。平成20年4月から、約45cmの役柱などを使用した豪壮な商家の雰囲気を楽しみながら、素朴な郷土料理や季節の和物などを味わうことができるようになりました。なつかしい暮らしの匂いと、心に染みるあたたかさを感じることができます。

参考文献)宇和島市ホームページ

http://www.city.uwajima.ehime.jp/kanko/k_annai/kuniyasunosato.html

調査・執筆担当：愛媛大学工学部環境建設工学科4回生 仲健太郎